

体育理論「オリンピックとフェアプレー」授業案

対象：高校1年生 40名

本時の位置：5時間中の4時間目

授業の目標：オリンピックとフェアプレーの関わりについて理解し、フェアプレーについて考え、スポーツの世界だけでなく日常生活にもその精神を活用できるようにする。

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	<p><前時の復習></p> <p>古代オリンピックが1200年間も続いた理由の一つに不正防止に対する努力があった。現在のオリンピックではどのような関わりがあるのだろうか。</p>	<p>フェアプレーについて学ぶにあたり、前時との関わりを認識させる。</p> <p>生徒との対話</p>
展開 ①	<p><オリンピックで求められるフェアプレー></p> <p>発問① フェアプレーとはどんなプレーか、なぜ称えられるのか。</p> <p>→フェアプレーとは：決められたルールを守って正々堂々とプレーすること</p> <p>勝敗を越えてお互いを認め合い、たたえあう態度</p> <p>オリンピックの目指すものとフェアプレー</p>	<p>フェアプレーとはどんなプレーか、その精神について考えさせる。</p> <p>オリンピックの精神とフェアプレーについて考えさせる。</p>
展開 ②	<p><ユネスコ国際フェアプレー賞></p> <p>日本人の受賞</p> <p><友情と尊敬></p> <p>これまでのフェアプレー、友情と尊敬を表す逸話</p> <p>①1936年「友情のメダル」②女子マラソン ③柔道など</p>	<p>具体的な例を挙げ、身近なものにとらえさせる。イメージを膨らませることができるように工夫する。</p>
展開 ③	<p><アンチ・ドーピング></p> <p>発問② ドーピングとはどんな行為か、なぜいけないのか。</p> <p>オリンピックにおけるドーピングの意味</p> <p>フェアプレーに反するドーピング</p> <p>オリンピックとアンチ・ドーピングの歩み</p> <p>現在のアンチ・ドーピングの活動 WADA Code</p>	<p>ドーピングについては別の時間に学習するので、ここではオリンピックにおける不正行為として、関わりを考えさせる。</p>
展開 ④	<p><フェアプレー精神の広がり></p> <p>オリンピックで活躍した選手が、その後さまざまな形で社会に貢献している。国際貢献、社会貢献</p> <p>例) 有森裕子「Heart of Gold」カンボジアの教育への貢献の話 など</p> <p>ビデオを見せる(?)</p>	<p>国際的に活躍した選手が国際貢献など、社会に貢献している事例を挙げ、フェアプレー精神の広がりについて考えさせる。</p>
展開 ⑤	<p><フェアプレーの精神を日常生活に活かすには></p> <p>発問③ フェアプレーの精神を日常生活に活かすにはどうしたらよいだろうか。</p> <p>私たちの身の回りにあるフェアプレーの精神が求められる場面とふさわしい行動について話し合ってみよう。</p>	<p>フェアプレーの精神を日常生活に活かすために、どんなことができるか考える。</p> <p>周囲の人と話しあって考え、学習カードに記入する。</p>
まとめ	<p>本時の学習を振りかえり、学習の成果を確認する。</p> <p>次回の予告</p>	<p>学習カード、アンケート調査</p>